

平成27年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：平成27年11月12日（木）

午前10時～

場所：東温市役所4階405会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

（1）地域公共交通網形成計画策定調査業務プロポーザル実施結果について

（2）東温市における地域公共交通の取り組みの評価について

（3）東温市における地域公共交通の現状について（連携計画策定以降）

（4）地域公共交通網形成計画策定分科会の設置について

（5）その他

4. 閉会

<資料>

【資料1】地域公共交通網形成計画策定調査業務プロポーザル実施結果について

【資料2】東温市における地域公共交通の取り組みの評価概要版（案）

【資料3】東温市における地域公共交通の取り組みの評価（案）

【資料4】東温市における地域公共交通の現状について（連携計画策定以降）

【資料5】地域公共交通網形成計画検討分科会の設置について（案）

【資料6】東温市地域公共交通網形成計画検討分科会設置規程（案）

平成27年度第2回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大西 裕	
2	伊予鉄道株式会社	運輸事業本部長	玉井 伸二	
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	黒河 敏則	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	高橋 昭雄	(欠席)
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	高井 健一	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	木村 圭策	
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷 則篤	
9	東温市区長会	会長	伊達 知元	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	橋本 政雄	(欠席)
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	
12	東温市PTA連合会	理事	白石 清仁	(欠席)
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原 弘	
14	市民の代表（公募）		藤本 貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	山口 博丈	(代理)交通上席係長 紅谷 広和
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田 淳泰	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	久保田 東宏	(代理)運輸企画専門官 池田 幸謙
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	藤井 一磨	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	居村 大作	(代理)主幹 山岡 恵美子

【アドバイザー】香川高等専門学校	准教授	宮崎 耕輔	
------------------	-----	-------	--

平成27年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成27年11月12日（木）10：00～10：45

会 場：東温市役所 405 会議室

1. 開 会

進 行： これより平成27年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

（1）地域公共交通網形成計画策定調査業務プロポーザル実施結果について

事務局： <説明（資料1）>

会 長： 今の説明について、何か質問等はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので次の議題に移る。

（2）東温市における地域公共交通の取組みの評価について

事務局： <説明（資料2・3）>

会 長： 今の説明について、何か質問等はあるか？

藤 本： 評価の内容については概ね理解したが、この検証内容の満足度について、たとえば便利になったから利用者がこれだけ増えたというような数値はあるか？

事務局： 事前に送付した資料2の16ページを見ていただきたい。路線別の利用者数をグラフで示している。1日当たりの平均利用者数を見ると、平成23年9月以降、上林線以外の滑川線・河之内線・松瀬川線・井内線については、若干ではあるが増加傾向になっている。平成26年5月の調査結果では下がっているが、その後、平成26年10月に運行内容を見直したことで、井内線以外についてはある程度増えた傾向をそのまま続けている。次に1便当たりの平均利用者数だが、試験運行後も試験運行前の利用者数を維持しているため、運行本数が増えた分、1日あたりの利用者数も増えたという結果になっている。こちらについても平成26年10月に運行ダイヤの見直しを行ったが、その後も1便あたりの利用者数はある程度同じ推移をしている。この中で河之内線については、平成26年10月の見直し後に、1便当たりの利用者数が増えているが、これは河之内線全体としての利用者数は変わらない中、運行本数の見直しにより便数が減ったので、1便あたりの利用者数が増えたという結果になっている。

会 長： 宮崎准教授、何かコメント等あるか？

宮 崎： 検証のところで、幹・枝の満足度についてももう少し幅広い方面からの検証ができればいいと思う。連携計画策定時に何を評価しようとしていたのかというところがまだ確認ができていないのだが、当時の資料等を見ながら付け加えることができるのであれば付け加えるとよい。

事務局： 今回の評価については、連携計画策定時に設けた目標、サービス供給目標についての検証という形で、連携計画に書いてある指標で評価している。ただ、連携計画策定時には、目標の取り組みの方向性や事業内容については検討が進んだが、検証についてはあまり重点的に検討が

できていなかった。今年度策定する新しい計画については、国の方でもP D C A（計画を作って・実行して・評価をして・見直しを行って・次につなげる）が重視されているので、これまでの方針等に加えてそれをどう評価していくか、どうつなげていくかというところを重点的に検討していきたいと考えている。

会 長： ただ今の事務局からの説明に対して、または全体を通じて何か意見等はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので、この評価を基に、次の計画の検討を進めていくということによろしいか？

各委員： <異議なし>

会 長： 承認を得られたので、案のとおりに進めることとする。

（３）東温市における地域公共交通の現状について（連携計画策定以降）

事務局： <説明（資料４）>

会 長： ただ今の説明に対して、何か意見や質問等はあるか？

この現状を踏まえた計画となるのか？

事務局： そうである。

会 長： そこも踏まえて意見があればお願いしたい。

藤 井： 上林線の路線バスが運行を終了し、予約制乗り合いタクシーが１０月から運行されているが、１日あたりの利用者数等はどうなっているか？

事務局： 昨年の１０月から運行を開始し、今年の１０月からは道路運送法４条の許可をとった運行に切り替えている。利用者数については１便平均で１．４人から１．５人程度となっている。１人でタクシーと同じように利用されるケースと、２人、３人、４人と乗っているケースとが混在しており、平均して１．４人、１．５人となっている。全体の利用者数については、やはり運行開始当初は少し伸び悩んでいたところはあったが、利用された方が固定客となっており、そこからの広がりや、徐々に増えてきている。今年の５月には地元のアンケート調査をもとに１便増便をしているが、それによって１便あたりの利用者数が減ることもなく、利用者が増便した便をうまく活用していただいている。最終的な目標として１便平均２人以上としており、それには、地元の方や利用されている方に誘い合って利用してもらうことが大事になってくるので、それにつながるような取り組みを地元の方とも相談してやっていきたい。

会 長： 他に何かあるか？なければ次に移りたいと思う。

（４）地域公共交通網形成計画策定分科会の設置について

事務局： <説明（資料５・６）>

会 長： ただ今の説明に対して、何か意見や質問等はあるか？

寺 田： この検討分科会というのは、地域公共交通活性化協議会の下での位置づけということか？

事務局： 資料５にあるように、一番上に地域公共交通活性化協議会があり、その下部組織として分科会ができるようになっている。事務局は都市整備課で行う。

会 長： 先ほど分科会を構成する委員は４名と聞いたが、資料には５名程度となっている。４名で進めるということによいか？

事務局： 委員の皆さんに分科会の参加を呼びかける際に分科会の構成メンバーと構成人数を示したほうが検討してもらいやすいと思い、５名程度としていた。１人２人だと分科会の意味がなくな

ってくるが、4人いるので分科会の機能を果たせると考えている。

会 長： 時間の制約がある中での分科会活動になるかと思うが、ただ今事務局から説明があった内容で進めてよいか？

各委員： <異議なし>

会 長： それでは、案のとおり分科会を設置し、これから策定作業を進めていきたい。

(5) その他

会 長： 本日予定していた議事は終了したが、何か意見や質問等があればいただきたい。

宮 崎： 先ほどの中で、言い忘れていたところが2点ほどあった。1つは「東温市における地域公共交通の取り組みの評価」について、事業内容で実施した部分しか書かれていないが、葉の部分として、みなさんあまりご存じないかもしれないが、協議会の内容はホームページで公表されており、これは意識の醸成のためにやっていることであるため、項目として挙げておいた方がいいように思う。会議を公表でやっている場合が多いのだが、実はホームページに資料等をあげている協議会はさほど多くない。この辺は出席されているみなさんにも意識の共有をできればと思うので、追加したらいいと思う。もちろん評価についてはなかなか難しいと思うが、「やっていますよ」ということだけでもいいと思う。

2つ目については今後の計画策定にも関係するのだが、福祉部局で声かけの支援等をやっていると思うので、そういったところも計画策定の段階で気にとめていただければと思う。信じられないかもしれないが、一昔前は移動手段が不便で外出できないという要望が非常に多かったが、ここ最近はそのではなく、出かける先がなくなって外出をしないという人が徐々に見受けられる。そういったところを踏まえて意識しながら、単なる移動手段の確保というよりはいいかにしてお出かけさせるかというところも踏まえながら検討していただければと思う。一方、市民のみならず、地域外から東温市を訪れるということもあるので、その場合に車だけではなく、「公共交通を使っても来られますよ」といったことを、何か働きかけができればと思う。そちらの方はおそらく観光関係でいろいろやっていると思うので、この協議会で取り扱うというよりも、他の部署も巻き込みながら今後の計画策定の中で何か触れていただければと思っています。

会 長： 先生の意見をいただいた中で、みなさんから何か意見があれば伺いたい。

事務局にはただ今の意見も踏まえたうえで検討を進めていただきたい。事務局の方から、他に何かあるか？

事務局： 先ほどの宮崎先生の「出かける先がない」というところに関連するのだが、市では地方創生の取り組みの中で、横河原駅の近くに「多世代交流拠点」というものを作ろうとしており、今年度中にできるように現在取り組んでいる。この施設は多世代ということで小さい子供から高齢者までが交流することができるということをテーマにしているため、公共交通の取組みともうまく連携できるのではないかと考えている。

会 長： それでは本日予定していた協議、報告事項をすべて終わったので、事務局に進行をお返しする。

4. 閉 会

進 行： 以上で平成27年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。